

邪馬台国はどこですか？



時間が流れ、正確な記録や記憶を語り継ぐ人々がいなくなっていく中で、人々の営みの記録である「歴史」にはさまざまな謎が生まれてくる。特に「歴史」のターニングポイントとなるような過去の大きな事件には魅力的な謎が付きものになる。そうした歴史の謎に対して小説としてアプローチしたのが今回紹介する短編集『邪馬台国はどこですか？』である。

舞台は場末のバーである「スリーバレー」。バーでは大学所属の研究者・早乙女静香と市井の歴史愛好家・宮田六郎との間で顔を合わせるごとに酒とつまみを挟みながらの歴史検証バトルが繰り返される。バトルの中心に据えられるのは有名な歴史の謎に対して宮田が提示した新説である。彼の出す説は荒唐無稽、にわかには信じがたいものばかり。組織に所属する研究者である早乙女は従来の説を駆使した論理で宮田の説に反駁する。一方宮田は権威にとらわれない。さまざまな史料を引用しながら従来の説を打ち破っていく。物語は二人のバトルを中心として展開する。

「邪馬台国は岩手にあった」「聖徳太子と蘇我馬子と推古天皇は同一人物」「本能寺の変は織田信長が自殺するために引き起こされた」など、宮田が提示する説は最初はあまりに馬鹿馬鹿しく、まともに取り合う必要もないような珍説としか思えない。しかし、バトルが進んでいくと、その珍説には強固な論理と意外なほどの裏付けがあることが示される。議論の深まりとともに、酒の席だけの馬鹿馬鹿しい説が不思議なほどの真実味を帯びる。現実とフィクションとがぼやけてくるような酩酊感がこの作品の魅力である。

もちろん、この作品はフィクションであり、提示される説も学説として真剣に取り上げられるものではない。大真面目な研究とは違うフィクションとしての観点から歴史の謎が扱われるからこそ、荒唐無稽な珍説とアクロバティックな論理で成り立つ議論に没入することができる。娯楽としての歴史の謎ときは独特な感動を与えるはずだ。

IWATE.....?

『邪馬台国はどこですか？』

著者：鯨統一郎
出版社：東京創元社
定価：660円（税別）



KYUSHU ?

YAMATO ?